資料①－1

指標についての意見（審議員）　　赤：前回審議会　意見反映　　緑色：事前レク変更箇所（委員意見）

			審議員の意見	野洲市の対応	指標番号
①	島田委員	５月12日審議会	目標に対して、実施の有無が書いてある。例えば、「環境に配慮した農業に関する啓発有無」は、啓発をしたら良いということになるか。	すべての指標を数値目標に変更。実施の有無や啓発回数の表現は使用しない。	反映（全体）
②	佐藤委員	事前レク	すべての指標にアウトプット指標（手段に対する指標）なのか、アウトカム指標（目的に対する指標）なのかカテゴライズしてみてはどうか。	アウトプット指標、アウトカム指標については明記せず、計画の見やすさ（情報量を減らす）を重視することにした。	見送り
③	平岡委員	５月12日審議会	発電設備については、家庭系やメガソーラー等、発電規模も大きく異なるため、一括りに件数という表現の仕方が適切なのかどうなのか。野洲市の場合、住居、店舗、工場等に設置する太陽光発電というのは、ポテンシャルがたくさんあり、かつ、推進すべき取組だと思う。野洲市はどの太陽光発電を推進したいかということを、明らかにした上で、その目標についても対象を絞った方が良い。	野洲市は家庭用太陽光発電設備に特にポテンシャルがあると考え、家庭用の10ｋｗ未満について指標とした。 事業所や商業施設の太陽光については、指標ではなく、施策で推進する。（第４章基本目標1参照）	1－1
④	平岡委員	事前レク	「市内の太陽光発電（10KW未満）設備の導入件数」の項目は良いと思うが、件数はBAU（ビジネス・アス・ユージュアル）の数値になっていないか。野洲市がこれまで取り組んできた事業ならばこれまでの実績を基に数値を決めて良いが、太陽光は違うのでは？	設置目標数値は、直近５年間の設置件数の平均値を求め、その件数が今後10年続く場合を想定し、数値算定。この数値は野洲市の人口減少が今後予想される中での数値であるため、BAU数値ではなく、施策数値（推進の努力を行うもの）であると考える。	
⑤	佐藤委員	事前レク	レジ袋の削減を第４章の施策で掲げており、えこっち・やすでも取り組まれていることから、指標でも取り入れた方が良い。方法としては、大型量販店１店舗でも良いので、レジの購入枚数、来客数のデータをいただき、購入率等を指標にすることはできないか。	店舗より、毎年、買い物袋の持参率のデータをいただき、それを指標とする。	2－4
⑥	佐藤委員	事前レク	ビワマスの遡上数に関して、それを生物多様性の指標にすることに異論はないが、調査員によって確認数やスキルが違うので、考慮が必要と考える。	一般の調査員が確認する1日あたりの平均魚影数に変更する。	3－1
⑦	佐藤委員	事前レク	野洲市らしさを出した指標にするならば、野洲市の漁港（中主支所）の一年間の外来魚を除いた漁獲量を指標にすれば良いのではないか。また目標年度は県の漁獲量を参考に令和12年度を目標年度に、漁獲量も県を参考にすべき。	外来魚を除いたR5の中主支所の漁獲量に県のR5～R12までの目標率をかけ、目標漁獲量を算出する。	3－6
⑧	岸本委員	事前レク	中主支所の漁獲量も単に県のＲ５年の数値をベースにR12までの目標数を参考に目標数値を決めるのではなく、漁獲量/出港回数の数値を目標におくか、ある一人の漁師の漁獲量を目標にする等、工夫ができるならしてほしい。より、アクティブな数値目標にすることが重要である。	アクティブな数値目標を算出するための根拠数値について、毎年同基準で収集することは難しいと考えたため。	反映困難